

□12月21日説教(隅野徹牧師)短縮版
「この方がわたしたちの主」(ローマ1:1~4)

今回の中心箇所に4節を挙げさせていただきます。とくにこの中の「力ある」という言葉が大事です。一見すると「歴史上の一偉人にすぎないと」捉えられることが多い、ナザレ出身のイエス。しかし! その方が「神の子としての力を帯びた方である、ということが「死者の中から復活するという、いわゆるイースターの出来事」によって示され、明らかになった! ということを聖書は証言するのです。ここで言われている、イエスがお持ちである神の力、が「私たちにとっての喜ばしきこと、めでたいこと」とつながるのです。その力とは…すばり「死に勝利する力」なのであります。聖書は、わたしたち人間は「自分がどんなに充実した人生を送ったと感じても」罪をもっているので、死から逃れることができないと教えます。その罪というのは、私たちがあれこれの悪いことをしている、ということであるよりも、もっと根本的な意味です。私たちに命を与えてくださる神との間の「本来の関係」が失われていることです。神を神として敬い、感謝し、礼拝するのではなく、自分が主人になって生きている私たちは、神との正しい関係を失っているのです。そこで神は、その独り子であるイエス・キリストは「私たちと同じ肉体を持った一人の人間」としてこの世にお送り下さったのです。私たちと同じ人間として「この世でのあらゆる苦しみを経験して生きて下さったあと」罪を全て背負って十字架で死んで下さいました。しかし、死の後、神が「御子キリストを復活させてくださいました」のです。イエス・キリストが復活して下さったことによって、このお方を救い主として信じるすべての人間に、肉体の死を越えた先に与えられる新しい命、復活と永遠の命の約束が与えられたのです。クリスマスにこの世へと来てくださったイエス・キリストが、その後成してくださいました「十字架と復活によって」、力ある神の御子による救いが実現したのです。これが、福音、よろこびしきことの中心です。このあと洗礼式が執り行われますが、洗礼を受ける方は「聖霊の働きにより」神の御子イエス・キリストと結び合わされ、キリストと一つとされた新しい命を生きるのであります。(終)